

令和二年 節分厄除星まつり



●日時

令和二年二月十四日（金）午後六時半～

真言宗 金剛山 弘浄寺

節分と星まつりについて・・・

節分とは季節の分かれ目をいい、実は年に四回あります。春から夏、夏から秋、秋から冬、冬から春ですね。その中でこの二月を全国で「節分、節分」とよくいうのか、それは一年の始まりにあたるからです。え？一年の始まりはお正月でしょ！と思われるでしょう。確かにそうですが、現代の暦（カレンダー）は明治五年に欧米諸国に合わせ改暦された太陽暦なので本来の暦とは約一ヶ月違うのです。改暦前の日本では旧暦にたしなみ、例えば季節を表す言葉もすべて旧暦で唱えられています。「新春のお慶びを申し上げます」や「桃の節句」「七夕」などがそれにあたり、言葉と実際の季節とはかけ離れていますね。「新春の・・・」と言いましてもまだ真冬です、「桃の節句」と言ってもまだまだ桃の花が咲く兆しありません、「七夕」の時期はまだ梅雨の雨空で星など眺めることはできません。

もうお分かりでしょうか、この大自然と一致した本来の暦は旧暦であり、現在の暦は約一ヶ月のズレがあるのです。つまりこの節分は本来の一年のはじまりにあたるのですね。

そして、当寺院の真言宗では星まつり、とも言いましてご自分が司られているその年の星（当年星）を供養し厄を払うのです。なんでも思う通りになりがちな現代人は自分が人としてこの大自然の一員に過ぎないと言うことをわからず傲慢になりがちです。人は皆、この大自然の恩恵を受け「あぎや〜」とこの世に生まれてきます。「おぎや〜」じゃなくて、「あぎや〜」ですよ。「あ」です（笑）

「あいいうえお」もここからなのです。「あ」という言葉はすべての音源なのです。そして人の一生はすべて宇宙の摂理と繋がって続けます。では、どの星と最もつながっているかと言うとそれは「北斗七星」です。まず北斗七星の中の一星にそれはあるのです。それを「本命星」と言います。

この節分星まつりは節を知り、誰もが生まれもっている運命を司る本命星、またその年の運氣を左右する「当年星」を護摩という炎をあげ神仏を招き、供物や読経のお供えをし、祈念するわけです。そして大難は小難に、良いことはもつと良くなるようにと祈願し災難を除けるのです。人間がこの大自然の一員であれば当然それは叶うということになるのですがそれがわかりにくいのはただ見えただけなのです。見えないことは信じないのが私を含めた現代人の愚かさなのです。良くも悪くも心は確かにありますよね、でも見えません、それと同じです。

生きているからこそ辛く、物事が思うようには生きません、そんな時こそ天空の夜空を見上げてください。必ず良い知恵が見つかるですよ。

真言密教（仏教の一つ）である当寺院では先に申し上げた星供養を修法できる寺院になります。真言密教とは弘法大師空海が西暦八〇四年に遣唐使船で

中国長安（現在の西安）より渡りもちかえり、当時困惑していた日本仏教を救済した仏教です。



真言宗 金剛山 弘浄寺 山主 後藤 寛浄

お参りにぜひーいっしょに！

どなた様でもお気軽にご参加できます

二月十四日（金）午後6時半～護摩が始まります

* 厄除けにお経を子供たちとお読み下さい。

* 護摩は火をあげますので煙たいと思いますが、

その煙り（薫香）がとても良い厄除けになります。

午後8時～豆まき

* 仏様にお供えたお餅やお菓子も巻きますので頂かれると良い功德になります。お菓子など（なんでも可）の仏様へのお供えをできる範囲でお願い致します。

厄払いのご依頼について

当寺は真言宗寺院になります、護摩祈祷にて厄払いを修法致します。

● 護摩祈祷の後、お札をお授け致します

ご希望の方は左記の用紙にて二月十二日までにご連絡ください

本厄、前厄、後厄の方は特別祈願をお勧めいたします

普通祈願料 三百円也 特別祈願 三千円也

◆ 特別祈願は別日にも特別祈願致します。 * 木札お授け

* 普通祈願は全額をやくし乳児院へ寄付致します。 * 紙札お授け

※星まつり当日にお参りできない方も当寺院で護摩祈祷後、

お札をお授け致しますので周りの大切な方々へも気軽に声を

かけて頂きお申込みください。 * 別紙のお申込用紙が護摩木でお申込下さい。

〈お願い〉

私は真言宗僧侶として困窮者へのお手伝いをさせていただいています。

その中でも子供達の支援活動をしています。この便利な世の中において親と暮らせない子供達が増加しているという現状に驚き、何かできることをという思いでお手伝いをしています。里親制度の勉強会や色々な活動をしている方にお会いし、自分でもできる限りのことをさせていただいています。

消費税が上がり、デフレが二十年以上続く社会の生活環境は一向に良くなることはありません。日本の政治も迷走しどこを見て政治をしているかわからないこの国が、先ず一番に考えていくべきは次世代を担う子供達の育成と支援です。

私は僧侶に四〇歳でならせただき、その後この節分の布教もしていますが、始めた時から祈願料を親と暮らせない子供達へ寄付してきました。今回も普通祈願の全額を鹿児島市薬師町にあるやくし乳児園にいる0歳～3歳までの親と暮らせない子どもたちのところへ責任を持って寄付をさせていただきますのでぜひ、皆様のご協力、御寄進をお願い申し上げます。ご家族やご友人等にもぜひお声かけをしていただき出来る範囲で多くの皆様からの御寄進を募らせて頂ければと存じます。 * 別紙のお申込用紙が護摩木でお申込下さい。

真言宗 金剛山 弘淨寺 山主 後藤 寛淨



節分厄払い申込用紙

氏名には必ずふりがなを振って下さい

○で囲む

普通・特別

普通・特別

普通・特別

普通・特別

普通・特別

●
ご住所

●ご連絡先

氏名には必ずふりがなを振って下さい

○で囲む

普通・特別

普通・特別

普通・特別

普通・特別

普通・特別

●
ご住所

●ご連絡先ご家族などまとめてお申し込みください。

